

2022年4月1日（金） 晴

新年度の始まり、天気は晴れ、桜は満開、金曜日。たぶん今日は朝から夜にかけて、大阪城公園、うつぼ公園は人がいっぱい。気温は低いので、服装要注意。

— 始まる2022年度 —

今年も当ページのメッセージを更新、また新しい一年が始まります。知人友人の中には仕事や生活環境が変わる人もいます。この時期ならで

個人的には大きな変化はありませんが、外目には見えない内面では変化があります。変化がない方がむしろあり得なくて、刻々と変っているものだろうと思いますが。

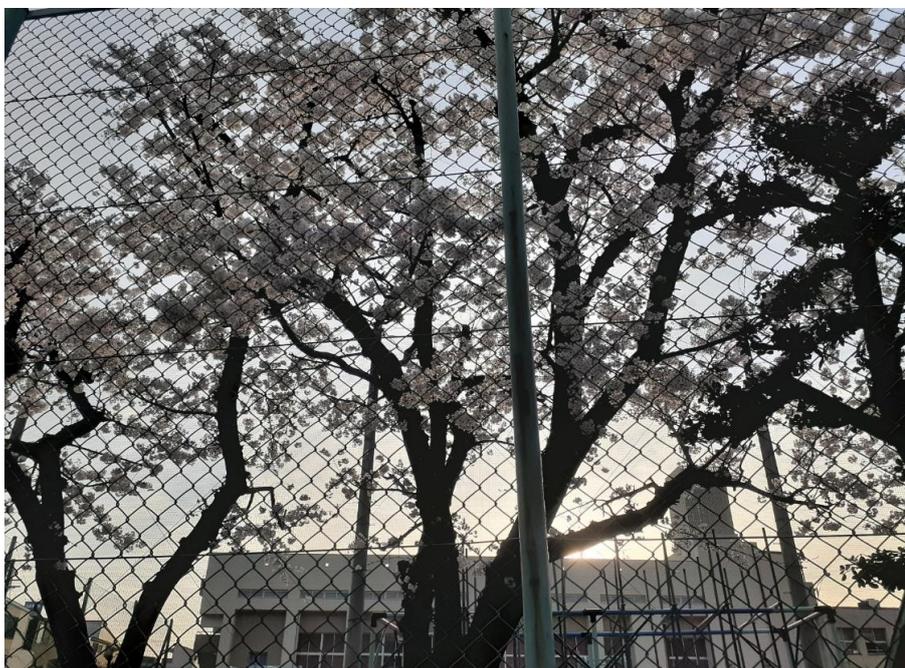
昨日今日のその内面の変化、それはこれからの長い時間を通じてのことです。直近にあった出来事から、『人の振り見て我が振り直せ』、今後の心がけを一つ掲げました。

それが何かはさておき、これは自業訓に追加しておこうと思っているところです。自業訓とは、自分を正すために五ヶ条で表した文言です。六条は数字がよくないので、五条のどこかに入れます。

わかっている、なかなか実践できないのが凡人。書いて、いつでも見えるようにして、自分に意識づけする、それぐらいしてちょうと。天才はそうしなくても、当たり前になります、それが天才。

そんなこんな新しい心がけを一つまた意識して、新しい年度をスタートさせます。世界・社会の状況に目をこらしつつ、この一年を始めます。

2022年4月2日(土)  
小学校校庭の夕景



2022年4月4日(月)

京都府立植物園で、長い付き合いの友人を桜を愛でながら哲樂の時たがいの仕事の人生をゆったりと語り合った3時間でした



2022年4月6日(水) 晴

今週は春晴れが続く、今日も絶好の花見日和。かなり前から平日でもどこも人が多い。大阪市内のあちこつで春の宴が盛んなことでしょう。

— その先に万感あり —

30年以上の付き合いでも、初めて聞いた、ということがある。折にふれコミュにケーションはとってきているのに、です。人のことは簡単にわからない、わからなものだと考える」ということがいかに大事か、ですね。

ところでなぜ、これまで一度も聞いたことのないことを聞くことになったか。それは本人が話し出したからです。こちらが尋ねたわけではなく、「実は…」と、子供の頃になりたかったこと、夢を話し出したのです。

すっかり忘れていたことをつい最近になって思い出したようです。これまたなぜ思い出したか。

自分のやりたちことを独立して始めて今年で10年、そういう節目が自然と自分の原点を辿ることになったのでしょう。そして、ああ、そうだったと、今の自分に合点がいったというわけです。

これはよくわかります。同じようなことを先に経験していますから、ある種、自分に開眼するという感覚。これはなかなかの妙味で、不確定要素の高い未来ですが、「受けて起ちましょう」と気になる。

実際、以前にもまして、内にひめた炎、闘争心がうかがえます。これから独自の世界をつくっていくよう。もちろん孤軍奮闘は続くでしょうが、その先に万感あり、です。

2022年4月6日(水) 夕方 「女性チャレンジ応援拠点」へ行く前に近くの公園でしばし桜見



2022年4月8日(金) 晴

今日も春晴れ、気温は昨日と同じ予報。この時期は着るものに悩み、早く家を出たいのに時間をとられてしまう朝。春が進み、その日ごとに少しずつ衣替え。

— “…?”、何かがある —

時々紹介しているフランスの数学者の言葉があります。「真に貴重な情報は〈流れの変化〉にある」。例えば不景気な社会状況で、いずれ好機に転じるはずの、その予兆をいち早く読み、他より先に動き出す、それ

流れの変化。景気に限らず、個々人の生活全体、仕事でも仕事以外でも、ものすごく大事なことです。経験的にもよく了解しています。何度かやり過ぎて、後になって、あの時の“…?”だったか、と。

“…?”があまりに微妙かつ一瞬すぎるのです。ほんの小さな疑問符をもったきり、そのままやり過ぎてしまうのです。でもそれが判断のズレや、時には一緒に仕事していた相手から指摘される、なんてこともある。

ちゃんと見てとっているのに、そのままにしてしまうのはもったいない。多くはさほど大きな問題にはならないのですが、パフォーマンスを上げる機会の逃がすともいえるわけです。

そう考えるようになってからは、何かしら“…?”を見てとった時には、気にとめるようになりました。気にとめて、何だろう、何故だろう、と追って頭を巡らせ、解く方法、手立てを考えるのです。

その手立ても、大げさでなく、無理がなく、自然に実行できるような方法が望ましい。たぶん、はっきり目にみえる“???”はハッキリと、そうでないものは、静かにやるのがいい、いま書きながらそう感じました。

ともあれ、ほんの小さな“…?”には好転、好事につながる可能性が潜んでいる。“気のせい”とやり過ぎさず、“何かがある”と考える方がベター。何もなければ、それに越したことはないわけです。

2022年4月11日(月) 晴

晴れが続く。土日は気温もあがり、陽ざしが強く、一気に春夏模様。花は躑躅、サツキ、藤の季節へ。

— 仕合せ —

「暗い山道で会って一番怖いのは人間」。友人がお爺さんの話として教えてくれました。仕事は猟師だったそうです。高校時代の昔に聞いたものですが、そうだろうなと思った感覚とともに、今も記憶に残って

人間の怖さが一番出るのが戦争といえる。「ウクライナ侵攻」が3週間をすぎた頃から、人間による別の野蛮が生まれるだろうことは容易に想像できました。歴史がおしえています。あまり言葉として書きたくありませんが、ニュースに上がっているようなことです。

フランスの大統領選挙、決選投票が決まったそうですが、その結果が今の世界情勢に与える影響は小さくないように感じます。指数関数的不確実性、未来の歴史は現在をどう記録するでしょうか。

怖い面と愛すべき面をもつ人間。グチや小さな悪口などは、かわいいもの。喜怒哀楽に合い、なんだかんだと言いながら自分の人生をいきていられる仕合せ。本当に貴重に思える昨今です。

2022年4月13日(水) 曇→晴

雲が徐々にとれてきた。夕方にかけてはますます晴れそう。それにしても気温が高い。急に上がって、また下がって。おだやかな春ウララを愉しみたいもの。

－ 「人生自体の便宜」 －

自業40年、「第一線」の前半20年、「ライフワーク」のための後半20年。仕事でいつも言っていることですが、昨日久しぶりにゆっくり話した旧知の人が期せずして言うこと。

「もはやライフワークと呼ばねば格好がつかないと思っています」。自分の想う活動を始めてまもなく20年なんだそうで、おのずと「ライフワーク」が視野に入ってくるのですね。

20年、よくぞ続けてこられた、と感慨深げなご本人。ご同輩、それも自分の活動を理解してくれる人との出会いと応援があったればこそ、続いている人の共通項です。

『自業のすすめ』にも書いて、音声版でも話しましたが、よくぞ出会ったものだ、不思議なものだ、と思える「絶妙の出会い」が本当にある。「木田元」をはじめ、多くの人が同じようなことを言っています。

いつの頃からか、わたしの誇りはクライアントと思っています。昨日の知人も同じように感じているようでした。特に印象的なのは、「人生自体の便宜をはかっていただいているに等しい」と思える人の存在。

そう思える人と長年の交流がある。これは人生のご褒美、自分にとっての一番の仕合せかもしれません。

自分の誇りと思える、自分の人生自体の便宜をはかってくれていると思える人がいる。そういう人が世の中にはいる。けっして多くはないけど、積極的に、厚意的に、人のために一肌脱ぐ人がいる。

そんなことも『自業のすすめ』に書いています。稀に、「『自業のすすめ』を印刷して読んでいます」を知らせてくれる方がいます。少しはお役立ちになっているようで本望です。

孤軍奮闘しながらも、誰かのためになることで自分の想うところを拓いていく。そうすれば、それを続けていける状況に出会います。俯瞰、鳥瞰することをわすれず、今日も明日も。

2022年4月15日(金) 曇→雨?

昨夜のうちに雨が降り、朝一番は少し陽もさしたが、また雲が多くなった。また降るかもしれない。今日から月曜にかけては平年並みの気温にもどりそう。ただ一ヶ月予報では月末からGWにかけて熱中症も注意と

— 書いておいてよかった —

280年前の人が言ったこと、『人は現在のことは指し示せばよいが、過去のことは物語らねばならない』。

今日のessaisで『アフォーダンス』のことを話したので、これに出会った当時のこと、経過を確認しようと、かつてまとめた文書を見直しまし

リーズレター『哲樂の中庭』No.46特別号(1999年6月)『私哲樂・他のだれでもないわたしという存在—旅は終りに近づいて—』。

読み返して、先の言葉の意義を深く感じました。当時としては、「現在を指し示し」、23年経った今としては、「過去を物語っている」。書いておいてよかった。

書いておいたことで、何より事実関係がよくわかる。いつ、だれか、どこで、何を、なぜ、どのように。時間の流れと状況のうつりかわりがはっきりとして、まるで昨日のこのように脳裡に浮かびます。

人との関係によってどれほど可能性が拓かれてきかもよくわかる。『偶然性と運命』(木田元)を読んだのは2001年5月でした。1999年以降ますます、『縁は異なるもの味なもの』を感じるようになったからです。

23年前の想い、姿勢、決意。それが今もかわらないことをみる。「書いておいてよかった」ことの一番はこれかもしれません。ブレなり、ズレなりしていたら、正す働きにもなりますから。

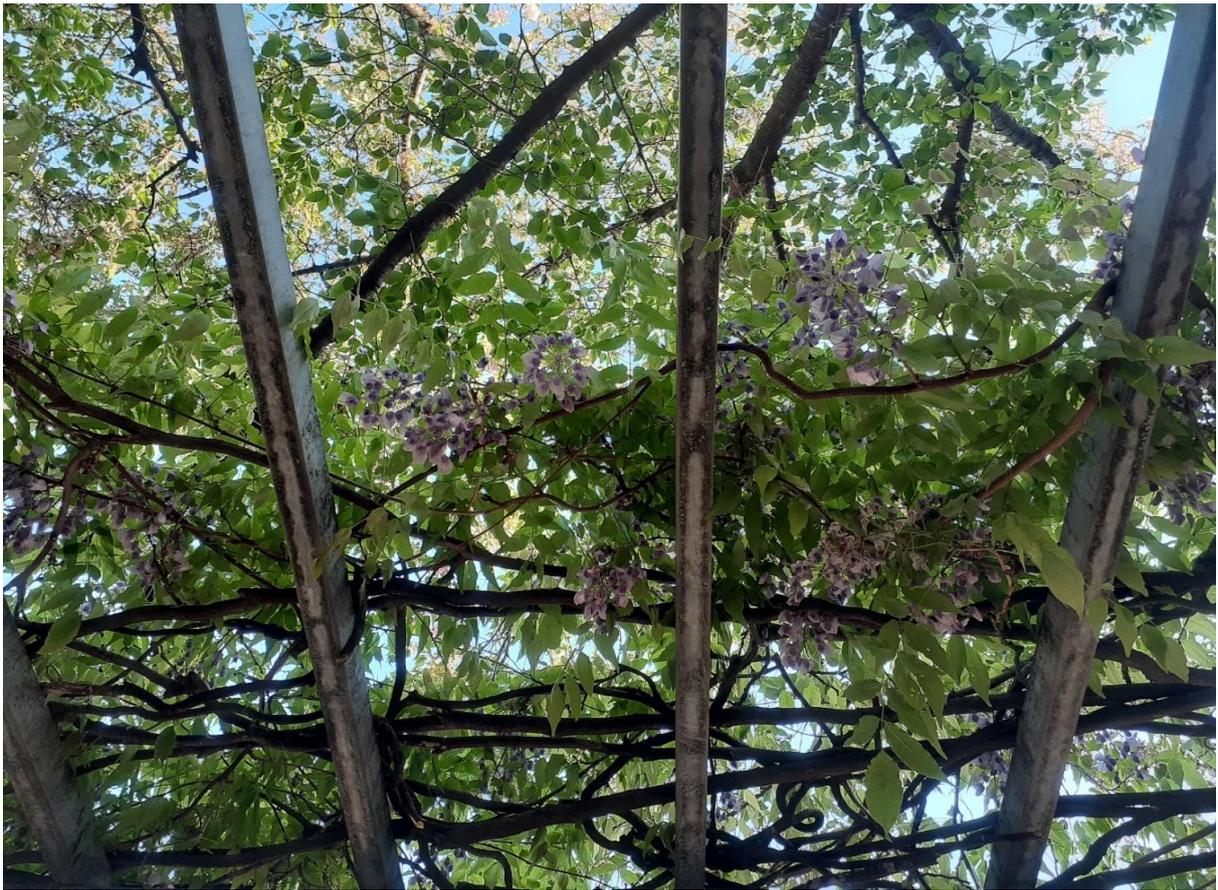
今の時代批評家が言ったこと、『書く、話すは魂の労働』。

書く。人に見せて、自分に試練を与えるのもいいし、見せないで自問自答をかさねるのもいい。ちなみに、「書く」について次のように言った人も

『「書く」では、書き手からさえ相対的に自立して、自らリアリティーを追求する独自の生き物となる』。

2022年4月16日(土)

大阪市内には住宅街に小さな公園がけっこうあって、一画にだいたいは藤棚があります。みると、もう咲いていました。



2022年4月17日(日)

和歌山、白浜

高年齢者の希望をかなえる知人に頼まれ、付き添きそい同行。その希望とは「パンダを見たい」。というところで、アドベンチャーワールドを目的に白浜へ行ったのです。もちろんイルカのショーも見逃しません。十九日のエッセーでも話しましたが、個人的には外湯ですごした時間が至福のときでした。





ホテルのテラスから。絶好の日和に恵まれた一日でした。



2022年4月19日(火) 晴れ

室内が明るい。隣のビル壁面から太陽の照り返し、9月初めぐらいまでは時々当日の晴天を感じることができる。16日の土曜の段階でもう藤がきれいに咲いていた。今年の春もあつという間だった。

－ 京大OCW －

コロナ元年の秋に京都大学のOCWに面白く為になる動画を見つけて以来、今もたまにチェックしています。興味あるものはだいたい見終わったのですが、大項目からはわからないユニークは講義・講座が埋まっているので、それを探し出そうと思って。

最近一つを見つけました。合間にちよくちよく聴いていりのが『中国文字文化論』。たしか日経新聞の日曜版の文化面に連載されたいた阿辻哲次教授の2013年の講義です。動画ですが、視るより聴く方です。

OCWは他の国立大学も実施していますが、個人的には京大が一番充実しているようにみえます。阿辻先生の講義も通常の講義が動画で記録され一般に公開されている。なかなか太っ腹ではありませんか。

さて、この講義。前期14回がすべてアップされています。最初はほんの「試し聴き」のつもりで再生したのですが、そのうち、耳をそばだてるようになりました。とにかくすごいのです、阿辻先生が。

90分の講義中、とめどなく話が続いていく。それがけっして独りよがりな感じじゃない。途中で何度となく受講している学生たちと話を交わしているような印象もうけるほど、余談も本論も、大河の流れのように悠々と大らかに、かつ、軽妙な口調で話が進むのです。

初めて聞くようなこと、知ってはいるけど本当には知っていなかったこと。へえー、そうだったのか…、と教えられることたくさん。まだ半分しか聴いていませんが、それでも、勉強になるなあ…と感じること多々。

先週久しぶりに会った知人にこの話をすると、「阿辻先生…?! いやー、本当にすごい人ですよ」。京大卒、40代前半のこの知人はしっかり講義を受けていたそう。あまり大きな声では言えない逸話には、なんとなく頷ける感じがしました。その内容はここに書けませんが。

2022年4月20日(水) 穀雨 晴れ

今日もよく晴れそう、朝から陽ざしがつよい。4月も下旬に入り、来週末はGWスタート。今年も3分の1が終わる…、なんともはや。

－ 部分と全体 －

あまり物分かりがいいのも、よくない。そんな風に自分に言いかせる時があります。子供の頃もあまり子どもコドモしないなかったし、大きくなるにつれても、気質はあまり変わらず、少々のことでは腹を立てることも

さらに年をかさねて、自他とも諸々もわかってくると、ある種の諦観もそなわり、大抵のことにはさほど動じなくなります。それはそれで平常心を保つことができ、いいのはいいのですが、経験的にも、ザワザワした心持ちが「刷新」のきっかけになることも知っています。

安定から革新は生まれません。これは間違いありませんね。

中庸、バランスという言葉を使うとき、必ずしも天秤が平衡になる場合だけをさしません。両極端だからつり合っていると云ったりします。偏ってはいるけど、全体としてはバランスがとれている。

「革新」とまでいなくても、「刷新」を継続的に重ねていく、そのための「ザワザワ」や「偏り」の割合って、どの程度が適当でしょう。量的なもの以上に質的な側面もそこに重なってくるでしょうし。こうなると、個々人の「ものさし」に依りますね。

部分的には「ザワザワ」と「偏り」を織り交ぜて、全体としては物分りはよく、そしてある時点で「刷新」がみてとれる。それが成長、あるいは年の功ということになるのでしょうか。

2022年4月25日(月) 晴れ

今週は梅雨の走りのような空模様になるそうで、今日の晴れは貴重。ただし雨あがりのせいか、少々むしっとする。週末からGW、10日間のお天気はいかに。

－ 成功要因 －

年4回ある法事の前半2番目を先週終え、まずは肩の小さな荷がおりた感じ。大したことをするわけではありませんが、祖先や家系に関することなので気は使います。スムーズに、穏やかに運び、済むように。

まずはその法事も滞りなく済み、ちょっとした開放感にひたっていた昨日日曜、日経に『宮尾登美子の日記をたどる 46歳の背水の陣』が載っていました。

「46歳の背水の陣」…。なにに？と本文を読んで、この作家の人生と人柄を知りました。「宮尾登美子」の本はまったく読んだことがない。そもそも女流作家といわれる人の本はほぼ読んでいないのです。

記事を読みながら2つのことにつながりました。一つはこれまで何度となく紹介してきた『男と女の生産性』（長谷川真理子）。もう一つは『チャンスは心構えができていない人だけ最良する』（パスツール）。

『男と女の生産性』。男性は20代で上がり始め、30代がピークで、40代に入ると急降下する。女性は急に上がることがなく、徐々に上がっていき、ピークは45歳から65歳。

当年必ず自費で出版を果たすと1972年元旦に「年頭の計画」を書き、前半は貯金、後半に出版と立てて、それを実現。その後すべてが好転していき、誰もが知る著名な作家になる。何がそうさせたのか？

「運をつかんだ強靱な意志」。それは、「地道な文章修業」、「自らの隠し事をさらけ出す度胸」、「丁寧な取材姿勢」にあり、背水の陣の成功要因として記事はあげていました。

地道、度胸、丁寧。自分ならではの業を成そうとする人には共通するポイントでしょうね。記事の筆者も自問していましたが、同じようにわたしもまた自問するのです。

2022年4月27日(水) 曇→晴

お昼前には晴れてくる予報だったけど、なかなか雲がはれない。かなりムシ暑くなると予想して軽めの服装にしたら、首あたりがスースーして、“ちょっとまずいかな…”。体調管理に要注意。

## ー 指数関数的不安定性 ー

『偶然とは何かー北欧神話で読む現代数学理論全6章』(イーヴァル・エクランド2006年)で数学者の著者が「指数関数的不安定性」について教えてくれます。

指数関数的不安定性、「微小な変化が時の流れにそって正常に展開していくうちに重大な結果となりうる」。

「3日で2倍に変化するなら、1ヶ月で2の10乗、2ヶ月で2の20乗…、1年で2の120乗倍になるに加えて、それらの変化が重層的となりうる

説明はまだ続くのですが、全部を読んで感じたこと、2つ。自分のもつテーマの一つを解くカギが「指数関数的不安定性」ありそう、そして、さまざまな事象を考える時の切り口にもなるなあ、と。

ちなみに、〈自分のもつテーマの一つ〉とは、人が集まって協働する「組織」の機能についてです。

それはさておき、『ハインリッヒの法則』、『バードの法則』果』というのがあります。前者は、「1件の重大な事故・災害の背景には29件の軽微な事故・災害があり、その背景にはまた300件のヒヤリとする事例がある」。よって、1:29:30の法則ともいわれ、バードの方は、1:10:30:

どちら、大問題は類似の微小な問題の末に発生するもので、ヒヤリとする、ハッとするような段階で、もちろんできればそれ以前に、具体的に対処することが極めて重要と説いています。

今回の知床での遊覧船の事故は、原因と背景が明らかになるにつれ、教訓は数えられないほどあるのに、また同じような事故が起こるといふ、何とも、人間のなさけなさと感じますが、自分もまたその一人。

とにかく、自他ともへの感度、察知する心身センサーをいいバランスで保とうと意識して、日常生活をおくろうと思うのです。指数関数的不安定性が正の結果をもたらすように。

2022年4月29日(金) 曇→雨

お昼前には雨。気温は20℃いかない予報だけど、湿度が高いせいか、少しむしっとする。そのつどやっていた衣替えも大型連休中がし終え

ー ラジオから ー

祝日とあって、ラジオ番組も特別プログラム。NHKFMは「昭和歌謡」、休日感満載です。

ラジオといえば、やはり思い出すのが佐藤弘樹さんです。京都FMの朝のパーソナリティーでした。2019年の春から時々「お休み」が続き、ついにある日の放送は冒頭から語り口がおかしく、途中から音楽だけになり、終了時間前のほんの一瞬、ただ一言、声をしぼりだすように、「今日は…、ありがとうございました」。

その後は代役が立てられ、戻ってくるような感じだったのが、もう完全に交替の感じになって、どうなっているのかとしばらくして局のサイトをチェックしたら、そこに訃報。

開局当時からずっと、朝のいつとき、佐藤さんと対話しているような気で聴いていたので、本当にショックでした。それも60代前半で逝ってしまうなんて…。

一番おもったことは、ご本人自身が自分の老いをみることができなかったことが悔しいだろうなあ…ということ。どんな風に晩年をいきぬくか自分で自分のことをたのしみにしていたんじゃないかと。

翌年「コロナ」に世界が遭遇して、佐藤さんだったら、どんな風に今の事態を語っただろうと、すぐに思いました。それほど、示唆に富んだ話をたくさん聴いてきたのです。

そういえば最近、筑紫哲也さんについての本が出ているのを広告で見ました。阪神あわじ大震災の時の芦屋の自警団の取材には、筑紫さんの真価をみた。他の番組とは一線を画した、人間と「社会」への鋭い視線を感じたものです。

ラジオからのんびりとした昭和歌謡が流れています。「博士ちゃん」たちの中に昭和歌謡・ポップスのディープなファンがいます。それほど昭和も昔になりました。

2022年4月30日(土)

前日の雨のおかげで、澄んだ青空、清々しい新緑!

